

群雄割拠のスペイン政局

発表日：2016年1月27日(水)

～政権不在は2ヶ月目に突入～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

◇ 総選挙から1ヶ月以上が経過するスペインで政権が発足できずにいる。国民党を率いるラホイ首相が国王からの政権発足要請を固辞したことで、社会労働党のサンチェス党首が首相候補に指名される可能性が高まった。だが、左派政権の誕生には、反緊縮的で党内からの反発の強いポデモスとの協力に加えて、独立要求を強める地域政党などの協力が不可欠で、政権発足の行方は混沌としている。社会労働党主導の左派政権、国民党主導の右派政権、二大政党による大連立、再選挙など、無数の選択肢が考えられる。ポデモスが政権入りすれば財政規律の悪化が嫌気される一方、ポデモスを排除する政権が誕生すれば、唯一の反守旧派勢力としてポデモスの党勢がさらに拡大する恐れがある。

昨年12月20日の議会選挙（定数350議席）で「国民党（PP）＜123議席＞」と「社会労働党（PSOE）＜90議席＞」の二大政党と「ポデモス（Podemos）＜65議席、改選時は69議席、地域政党への分裂を主張した4議員が既に離党した＞」と「市民（C'sまたはCiudadanos）＜40議席＞」の新興2政党が票を分け合ったスペインでは、投開票から1ヶ月以上が経過した現在も政権が発足できずにいる（図表1）。1月13日に新議会が召集され、国民党、社会労働党、市民の3党は社会労働党の所属議員を新議長に選出したものの（ポデモスは独自候補を擁立した）、議長選出と政権発足は別問題とし、何れの党も国民党主導の新政権発足を支持しない方針を改めて表明している。

（図表1）スペイン下院の政党別議席数

【右派系政党の議席】

国民党（PP）	123
市民（C's）	40
民主主義と自由（DL）	8
バスク国民党（PNV）	6
カナリア連合	1
合計	178

【左派系政党の議席】

社会労働党（PSOE）	90
ポデモス（Podemos）	65
カタルーニャ共和左翼（ERC）	9
統一左翼（IU）	2
ビルドゥ（Bildu）	2
ポデモス離党者	4
合計	172

出所：スペイン内務省資料より第一生命経済研究所が作成

社会労働党を率いるサンチェス党首は選挙結果を受け、最多議席を獲得した国民党にまずは政権発足の権利があることを示唆したが、首相の指名・任命権を持つ国王フェリペ6世から政権発足を要請された国

民党のラホイ現首相は22日、現時点では議会の十分な支持が得られないことを理由に要請を断った（政権発足には投票総数の過半数の信任が必要となる）。その数時間前、ポデモスのイグレスィアス党首は、社会労働党と「統一左翼（IU）＜2議席＞」との左派総結集による連立政権の発足を支持する方針を示唆。社会労働党のサンチェス党首も国王から首相候補に指名されれば左派政権の発足を目指す考えを明らかにした。ラホイ首相としては敗戦が濃厚な信任投票を現時点で行うよりも、左派勢力の政権発足協議が暗礁に乗り上げるのを待ち、社会労働党が国民党政権の誕生に協力することに期待しているのだろう。他方、サンチェス党首は国民党から政権を奪取するためには、ポデモスとの協力も排除しない方針だ。

スペインの憲法規定によれば、初回の信任投票から2ヶ月以内に政権が発足できない場合、国王は議会を解散し、再選挙が行なわれる。初回の信任投票を実施するまでの期間に特段の定めはなく、ラホイ首相が政権発足要請を固辞したことで事態は膠着化しかねない。こうした動きを受け、政治空白による混乱を回避する観点もあり、フェリペ国王がサンチェス党首を新たな首相候補に指名する可能性が高まったと言えそうだ（フェリペ国王は当初、1月中の政権発足を目指す考えを明らかにしていた）。

だが、左派3党の獲得議席は議会の過半数に届かず（90+65+2=157議席＜全議員が投票に参加した場合の過半数=176議席）、左派勢が政権を発足するには国民党や市民が信任投票を棄権するか、地域政党が閣外協力したり、投票を棄権する必要がある（図表2）。独立の動きを強めるカタルーニャだけでなく、バスクの地域政党「バスク国民党（PNV）＜6議席＞」も政権への協力の見返りに、独立の是非を問う住民投票の実施を認めることなどを要求しており、地域政党の協力を取り付けるのは容易でない。また、ポデモスがカタルーニャの独立の是非を問う住民投票の実施を認める方針を堅持していることに対して（独立自体には反対している）、主要政党からは一様に反発の声が挙がっている。社会労働党内にはポデモスとの連携に消極的な意見も多く（党の埋没を招く恐れがあることやスペインの政治安定を脅かしかねない）、サンチェス党首が党内の不協和音を封じ込められるかどうかは予断を許さない。

（図表2）左派政権誕生に必要な連立の組み合わせ

連立政権の組み合わせ	議席
社会労働党＋ポデモス＋統一左翼	157
社会労働党＋ポデモス＋統一左翼＋ポデモス離党者	161
社会労働党＋ポデモス＋統一左翼＋左派系地域政党	168
社会労働党＋ポデモス＋統一左翼＋ポデモス離党者＋左派系地域政党	172

信任投票に参加する組み合わせ	過半数
全議員が投票	176
国民党が投票を棄権	114
市民が投票を棄権	156
ポデモス離党者が投票を棄権	174
左派系地域政党が投票を棄権	170
ポデモス離党者と左派系地域政党が投票を棄権	168
カタルーニャの右派系地域政党が投票を棄権	172
右派系地域政党が投票を棄権	168
カタルーニャの右派/左派系地域政党が投票を棄権	167
全ての地域政党が投票を棄権	163
ポデモス離党者と全ての地域政党が投票を棄権	161

出所：スペイン内務省資料より第一生命経済研究所が作成

党内外の交渉が行き詰まり、左派総結集による連立政権の発足を断念する場合、社会労働党が市民＋αの協力で反国民党政権の樹立に傾く可能性もある。この場合、国民党の投票棄権が政権誕生の絶対条件となる（ $90+40=130$ 議席＞国民党の投票棄権時の過半数＝114議席）。或いは、再選挙時の党勢悪化（ポデモスにさらに票を奪われる）を懸念する社会労働党が、例えばラホイ首相の退陣を条件に信任投票を棄権し、国民党と市民による非多数派政権（ $123+40=163$ 議席＞社会労働党の投票棄権時の過半数＝131議席）が誕生する可能性もある（図表3）。さらには事態の打開に向け、国民党と社会労働党の二大政党が大連立政権の発足に傾く可能性も引き続き排除できない。こうした政権発足の試みが全て不調に終われば、再選挙が行なわれることになる。このように政権発足の行方は依然として不透明だ。

（図表3）右派政権誕生に必要な連立の組み合わせ

連立政権の組み合わせ	議席
国民党＋市民	163
国民党＋市民＋カタルーニャ以外の右派系地域政党	170
国民党＋市民＋全ての右派系地域政党	178

信任投票に参加する組み合わせ	過半数
全議員が投票	176
社会労働党が投票を棄権	131
ポデモスが投票を棄権	143
ポデモスとポデモス離党者が投票を棄権	141
カタルーニャ以外の右派系地域政党が投票を棄権	172
右派系地域政党が投票を棄権	168
全ての地域政党が投票を棄権	163
ポデモス離党者と全ての地域政党が投票を棄権	161

出所：スペイン内務省資料より第一生命経済研究所が作成

隣国ポルトガルと同様に左派総結集の連立政権が発足すれば、財政規律の悪化や構造改革の停滞は避けられない。反緊縮色の強いポデモスが連立政権に加われば、少なくとも短期的には金融市場は動揺しよう。さらに、連立参加時にポデモスがカタルーニャの独立投票を容認する姿勢を貫けば、同州政府が独立の達成期限とする2017年3月に向け、独立問題が本格的な不安要素として浮上することになる。なお、昨年9月の州議会選挙後、政権発足ができずに再選挙の可能性が高まっていたカタルーニャ州では、マス首相（当時）の退任を条件に、強硬な独立派の「州民連合の候補（CUP）」が土壇場で、独立賛成派の統一会派「ともにイエス（Junts pel Sí）」の政権発足に協力する方針に切り替えた。再選挙が回避されたことを好感する見方も一部にあるが、新たに州首相に就任したプチデモン氏は前任者以上に積極的な独立推進派との声もあり、スペイン政府との対立がより一層深まる恐れもある。他方、国民党と市民による改革志向の非多数派政権が誕生すれば、市場はいったん好感するとみられる。だが、社会労働党が閣外協力する形での政権運営は極めて脆弱と考えられるうえ、唯一の反守旧派勢力となるポデモスの党勢拡大につながる恐れもあり、中期的な政治リスクを却って高める可能性がある。

以上